

土サミット アンケート

Q1.セミナー全体の内容について

- 今後の建設発生土の有効利用につきまして非常に多方面にわたり情報収集ができ、勉強になりました。
- Web 参加があり、有難うございました。会場のみであれば参加することはほぼありませんでした（県外出張となるため、など）。今後も、Web 参加併設での開催をお願い致します。また講演会で使用した資料や Web で見た映像など後日再度見られるようにできないでしょうか。
- 会場の中央の緑のモチーフはすごく良かった。
- 会場の広さ、ソーシャルディスタンス、コロナ対策、レベルが高かった。
- 各業界からの講演が聞けて、非常に勉強になった。貴協会の真剣な取り組みが細部に見られた。次回も期待しております。
- 全体的には良かったが、再生土の利用促進に向けての業界としての現状が知りたかった。
- セミナーの企画構成についてであるが、土の供給サイドからの情報発信は多いものの、土の需要サイドからのニーズも把握、分析していくことが重要なのではないかと考える。
- 土砂をめぐる不適切な取扱いによる問題なども深掘りする必要がある。

Q2.第1部「特別講演：素材としての土の多様性と今後の展開」について

- 久しぶりに地球物理のお話を聞くことが出来楽しかったです。
- 土に関して原点に立ち返り、工学的知見から見直すことが出来た。
- 粘土鉱物の構造と水の保持、排水特性についてもう少し解りやすく説明していただきたいと感じた。この情報は、土の利用者すなわち盛土構造物の設計者には必要な技術情報になり得ると思う。
- 熱海の盛土は、人災問題と思われる、土砂の盛土する為の手続きの抜け道があることに問題がある。（安価な処理方法の抜け道）
- どのように熟練者の感覚を第三者に正確に伝えるのか？全国の人が条件の異なる土を最適な工法で同一の品質に改良できるマニュアルが必要。

Q3.第2部「講演：建設リサイクル行政の最近の話題」について

- 非常に推進されている建設リサイクルの行政が理解できました。
- 建設リサイクルの全般的なお話を聞くことが出来、勉強になりました。建設リサイクル推進計画 2020 の「質」については初めて知りました。
- リサイクルの「質」については、より付加価値の高い製品とするのは良いが、その前に再生土そのものの「質」を確保する手段や管理方法に目を向けて欲しい。※ 1

Q4.第2部「講演：建設資材としての土に求められるもの」について

- 2017 年の土壌汚染対策法の改正により、自然由来基準不適合土壌の活用方法があることを初めて知りました。山間部では処理施設までの距離もあり、管理型処分場などへ搬入するものと思っていました。

土サミット アンケート

- 上述（※1）のリサイクルの「質」についてその考え方を詳細に説明していただき、非常に良かった。
- 災害発生時の土のリサイクルについての更なる情報提供を伺いたい。
- 建設汚泥は中間処理された時点で廃棄物として卒業し、その後の運搬時は有価物や建材として取り扱うことが重要。
- 建設資材として再利用するタイミングはなかなか合わないの、残土として山に処分することの他に良質材として山にストックすることは可能か。

Q5. 「各業界のリサイクル方法・技術について」について

- 土のリサイクル・改良・洗浄などもっとユーザー（発注者）への理解度を高めて頂きたい。
- ところどころ、ユーモアを交えたお話、とても感銘を受けました。またお話を伺いたいと存じます。
- 再生土の利用における不具合についての説明が欲しかった。
- 現場からの声として貴重な声を頂いたと思う。粘土鉱物同定については興味深く聞くことが出来た。勉強していきたいと思う。
- 公共工事等への利用推進のための要件として、処理土の有効利用を図ることが重要。廃棄物ではなく専らモノとして取り扱うことが求められる。
- 全国のバラバラの土の品質（粒度・強度・含水比）が一つのレシピで全て同じ性状に改善できるようなシステムに期待する。

Q6. 「建設発生土の公共・民間工事間利用促進のための情報交換システムについて」について

- 汚泥や汚染土も活用方法次第で、再利用可能であると再認識出来ました。
- 最後の嘉門教授が言われた「建設発生土を産業廃棄物と同様の取り扱いとしないように。」ということに強い同意を感じました。昨今の盛土崩落事案から、建設発生土の利用を規制する動きが強くなっており、非常に懸念を感じております。将来を見据え、資源として有効利用が図られるよう、また経済活動として成立するよう、業界も自助努力を惜しんではいけなと強く感じました。
- 民の発注者に対しての指定処分の考え方を定義させるための手段が必要と感じる（質問用紙に記載）。
- コストについての分析がどのようになっているのか、システムがうまく回らないことの課題は何であるか、明確にすべきである。

Q7. 第3部「質疑応答」について

- 時間がもっと必要である。
- もう少し時間を長くって話を聞きたかった。次回は質問も広く紹介し、意見を聞きたいと思う。
- Web 配信時のコメントやチャット等での質疑応答形式があってもよいのでは？
- 過度な取扱いや過剰な知見（メディアの煽り）に左右されない毅然とした対応や政策が必要と思われる。
- 短い時間で要所をよくまとめていました。もう少し深掘りしたいところもあるのではないかと。

土サミット アンケート

Q8. 今後、参加したいセミナー

- 建設発生土の有効利用の事例やマッチングの有効事例の紹介。
- 先進的リサイクルの現地見学があると良いと思います。
- 民間事業の建設発生土リサイクルの現状が聞けると有難いと思いました。私は、発注者側の職員です。
- 最近の土砂災害の調査結果
- 今年のノーベル物理学賞は真鍋叔郎さんが受賞しました。例えば「地球温暖化と今後の土木について」などのテーマで講演会はできないでしょうか。
- 激甚化する台風・豪雨被害において発生する河川堆積残土等の土砂について。
- 農学分野とも連携した土砂利用について。
- リサイクル機械メーカー、土と環境との関わり。
- 土を別のものへ変換。固化材を使わない安定処理。改良土の国営のストックヤードの可能性。

Q9. 上記以外でご感想やご意見を・・・

- 営繕工事共通仕様書では埋め戻しは山砂と示されています。建設発生土が使用できるよう、品質を明確にし、仕様を改正することで公共建築工事においても建設発生土の利用が促進されるのではないのでしょうか。
- 全国の盛土で災害リスクの調査対象が1万か所を上回るということで大変だと思います。
- 各業界団体様が垣根を越えて難題に取り組む姿勢は素晴らしいと思います。各他廃棄物のリサイクルが進んでいる中、この建設発生土（建設汚泥）のリサイクル率は著しく低い状況は理解しております。ハードルがいくつもあり、高い課題が山積みですが、是非このような活動を継続していただき、よき方向に進んでいかれることを願っております。
- 建設発生土の有効活用に関して、各工事において下請けとして、土工や運搬を担っている業界の方々に、建設発生土の有効活用の実態をお聞きしてみたいです。とても興味深い内容で業界でもトップクラスの方々の講演であり、貴重な情報収集の機会となりましたので、是非継続して開催していただければと思います。また、Zoom形式で遠隔参加できたのもよい試みだと思いました。
- パワーポイントのサイズ（冊子のほう）が、小さくて読めない。せめて1ページに2面として欲しい、また、データ等を参加前にダウンロード等出来ればいいのですが。
- 会場が暗いせいなのか、せっかくのPR資料の文字が小さすぎて見えづらかった。
- 感染対策もしっかりされていて安心して聴講できた。
- 久しぶりのface to faceの講演で感激しております。スタッフ・事務局の皆様お疲れ様でした。
- リサイクルであるので、リサイクル先となるユーザーの声を吸い上げるべき。
- 世論に向けた広報は重要。熱海の事故が良いきっかけになれば考える。
- 各テーブル席において個人のスマホやタブレットで視聴できるようにしてほしい。受付でQRコード等で同時配信のコンテンツに誘導するなど。